



『レオン』

1994年リュック・ベッソン監督作品。殺し屋として生きるレオン(ジャン・レノ)と、家族を失った12歳の少女マチルダ(ナタリー・ポートマン)の物語。冒頭、主人公レオンの暮らしから始まる。10代でアメリカに渡ってきたイタリア系移民。その仕事ぶりは鮮やかで残忍。一転して近所の劇場で古いミュージカル映画にうっとりで見入る。観葉植物の手入れ、食料品店で買い物、銃の手入れ、睡眠、トレーニングと、日常が淡々と描かれる。同じアパートの住人の一家が麻薬をめぐるトラブルで銃撃され殺される事件が起き、物語が動き出す。レオンは銃撃を逃れたマチルダを救い、共にパートナーとして歩み出すことになる。

チャーチルを演じ、今年度のアカデミー主演男優賞を取ったゲイリー・オールドマンが、この映画では敵役の麻薬取締局の刑事を怪演している。殺人をする直前に習慣的にカプセル(おそらく覚せい剤か何か)を口に入れ、天井をみあげ嘔み砕くシーンは映画好きの間でも話題にのぼる。頭の中に交響曲が鳴り響き指揮しはじめる動作は病的だ。

ニューヨークの街を背景に東洋的な雰囲気のスリングスの旋律、そしてビョーク、スティングなど印象的な楽曲が流れる。物語の中盤でバンドネオンがBGMとしてながれる。レオンとマチルダがホテルの一室でジェスチャーゲームを始める場面。互いに正解が出るまでモンロー、チャップリン、ジョン・ウェインなどのスターを演じあうのだが、その仕草や歌にあわせてバンドネオンのフレーズが絶妙に奏でられる。素朴でぬくもりのある音。大都市の中で、殺し殺される緊張感から隔離されたような部屋の中での遊びのひと時。この楽器の音色がびたりとはまる。

最近、そのバンドネオンを聴きたいがためにオリジナルサウンドトラックCDを取り寄せてみたが残念ながらその場面は収録されていないかった。

この作品の原形といわれる『グロリア』(1980年ジョン・カサベテス監督)もアコーディオンは登場しないが、かなりおもしろい。機会があればぜひ観てください。

《東京都 森 陽介》



シリーズ『映画とアコと音楽と』の連載にご協力ください！

原稿投稿者募集

…ボランティアになりますがこの機会にご協力頂ける方がおられましたら、広報部までご連絡ください。

連絡先…広報部(乙津)090-5445-6950 Email: otsuke@v00.itscom.net